

年十一月一〇日まで

開設場所 福島市土湯岩城屋 外二三ヶ所

利用券 二、〇〇〇枚発行、一枚につき二五〇円を福島支部で負担した予算額 五〇〇、〇〇〇円

(7) 冬の家の開設

開設期間 三一年一月二二日より三二年二月二八日まで

開設場所 信夫郡吾妻村高湯安達屋外五ヶ所

利用券 一、五〇〇枚発行、一枚につき二五〇円福島支部で負担した。

予算額 三七五、〇〇〇円

(8) へき地組合員に対する救急医薬品の無償配布

へき地に勤務している組合員は、その地理的条件のため種々の面で共済組合事業の恩恵に浴することが少い。福島支部においては昭和二九年度保健福祉事業より引続きへき地組合員に対して救急医薬品を無償配布している。

配布組合員数 二、〇六〇名  
一名に対し救急医薬品一箱無償配布 一箱 五〇〇円  
予算額 一、〇三〇、〇〇〇円

(9) 水泳講習会

期日 三一年八月一五日より一八日まで四日間

場所 猪苗代、長浜及び四倉町  
講師 福大助教授 早川謙一氏外三名  
受講者 一四九名

各方部毎に大型バスを運行し受講者を無料で送迎した。

(附) スキー講習会

期日 三二年一月八日より一三日まで六日間

場所 沼尻スキー場、岳スキー場及び高湯スキー場

講師 松山六郎氏外四名

受講者 一一一名

受講者より申込金二〇〇円を徴収し、宿泊料及び車馬賃実費は福島支部が負担した。

(10) 共済組合レクリエーション大会各出張所単位に実施し、補助金として出張所一、〇〇〇円から二六、〇〇〇円まで計二四四、五〇〇円を交付した。

(2) 貸付福祉事業

組合員の臨時の支出に対し、資金を貸付け、福祉を図ることを目的とする。

(1) 住宅貸付(昭和三二年一月現在)

貸付金額 三六、七八〇、〇〇〇円  
件数 一、二八六件

(2) 一般貸付

貸付金額 五、五〇〇、〇〇〇円  
件数 八四四件

(3) 災害貸付

貸付金額 一、〇六〇、〇〇〇円  
件数 三二二件

(3) 宿泊福祉事業

信夫郡飯坂町湯の上十一番地に公立学校共済組合飯坂保養所吾妻荘が、全

国六〇の施設の一として、組合員及び扶養家族の憩の家としての利用に供している。(一泊二食付四七〇円)

施設概要(昭三二年三月末増改築完成予定)

客室 一八

会議室 一

ホール 一

収容人員 八〇名

テレビ、電蓄、マジシャン、碁、将棋の設備あり

三十年度における飯坂保養所の利用

## 第二節 福島県教職員互助会の現況と事業の概要

昭和二十八年四月一日発足の本会は、本県教職員の相互共済及び福利増進を図るため規約を定め、県教育委員会の所管に属する職員と、公立学校共済組合の組合員たる資格を有する者を会員として組織してきた。

会員は昭和三十年度の決算書によれば、一四、五〇〇名を超え、納付金は約三、四四〇万円、県補助金は一、七四〇万円であった。

次にこの年度の事業の概要を歳出費目別にみると、次のようである。

1 医療補助金	月	件	千円
会員分	四、九	六三五	一、四七八
被扶養者分	前年度二、一		四〇、四八三

状況は次の通りである。

利用者	宿泊	九、四二〇名
	日帰	三、四〇五名
計		一二、八二五名
取入		七、〇三二、〇〇〇円
支出		
事業支出		六、五二九、〇〇〇円
事業外支出		五、〇〇〇円
本部へ送金		三六〇、〇〇〇円
当期利益金		一三八、〇〇〇円
合計		七、〇三二、〇〇〇円

2 死亡弔慰金	会員分	四、九	一六	五八〇
	被扶養者分	四、九		二九八
3 災害見舞金				四一
4 出産見舞金	会員分	四、九	二二四	三三六
	被扶養分	四、九	三三二	三五四
5 結婚祝金	前年度	四、五	二九三	二、八五〇
6 退職金			四、五	三四七